

## 山口県産材木造建築検証会～15年の歳月を経て見えるものは？～を開催して

宇部支部 伊藤 達人

令和5年10月21日（土）に楠こもれびの郷楠むらづくり(株)、宇部支部・青年部、県青年部・女性部が共同で築15年を迎える宇部市内の楠こもれびの郷（本誌：2010年1月号作品紹介掲載）で山口県産材木造建築検証会を開催しました。

午前中は楠こもれびの郷木造建築に使用された木材採取場でもある荒滝山麓の「よろずの森林（もり）」を所有者の山口県指導林業士の田邊氏に説明・誘導して頂きながら木材生産地見学を実施しました。

森林を一周歩き、最後に参加者に枝打ち実習をしてもらい、見学を通じて枝打ちを早い段階で行わないと幹内の枝の部分で断面欠損してしまうことや、現在は伐採までの期間が短い約25～30年の杉材も植林されている等、参加者は木造の原点である県産木材生産地について学ばれました。

午後からは楠こもれびの郷研修室で「県産材でつくられた木造建築の経年変化とこれからの木構造を検証する」を題名に(株)グリーンデザインオフィス岩田氏を講師に木構造研修会を実施しました。



木材生産地見学



枝打ち実習

内容は県産木材のヤング係数等の特性、楠こもれびの郷木造建築の固有周期のオープン前と現在の比較等の説明がされ、参加者は県産木材を使用した木造建築についてより理解を深められました。



木構造研修会



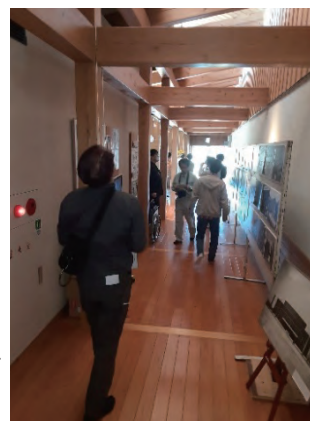
木構造

最後に、モクモク（木々）博士による「モクモククイズラリー」を行いながら楠こもれびの郷の施設を見学しました。

クイズは施設内の柱・大梁等の主な木構造部分や施設等に関する15問です。見学後、博士によるクイズの解答解説により、参加者は木構造や施設に大変関心を持たれていました。

15年の歳月を経て見えたものは岩田氏より木構造部は梁たわみ量等現在も問題ないことの説明がされましたが、今後の数十年間も建物が適正に使用されるように努めて行かなければならないことが見え、また、森林の木々を育て、木構造の基となる木材を作ることの重要性も見えました。

楠こもれびの郷オープン時は人々の笑顔が見られましたが、15年後は本研証会のクイズラリーで入賞された方々の笑顔も見られて、木造に関する知識をととも得ることができた研修会でした。



施設見学



クイズラリー



各クイズポイントに設置した木材で作ったモクモクスターは施設内（木構造）を輝かせました。